



只見町ブナセンターだより

<ごあいさつ>

秋も深まり、肌寒さが身にしみる冬隣。みなさまいかがお過ごしでしょうか。只見町における今年の紅葉の見ごろは平年に比べて遅く、まだ町内の一部では色とりどりに染め上げられた山々を見ることができます。紅葉を楽しんだ後は、一面雪景色へ、目で季節の移ろいを感じることができる自然豊かな只見町へぜひお越しください。

==== 開 催 案 内 =====

【企画展】

只見の猛禽類

^{もうきんるい}猛禽類とは鋭い^{くちばし}嘴や爪をもつ肉食性の鳥類であり、本企画展ではタカ目とハヤブサ目、いわゆる「ワシタカ類」に焦点を当てます。只見町では、2021年現在14種の猛禽類が記録されており、中でもクマタカを始めとする山地森林性の種が多くを占めるのが特徴です。猛禽類は生態系の上位捕食者に位置付けられ、豊富な餌や広い環境などを必要とするため、生態系の健全さの指標とも言われる存在です。

解説では、豊富な生態写真を交えつつ、只見町のワシタカ相の特徴とその成因、サシバなど代表的な種を中心に生態を紹介するほか、人の利用により変遷してきた自然環境が猛禽類に与

える影響など、様々な観点からアプローチしていきます。ご来場のみなさまに、猛禽類の面白さと、猛禽類の視点から見た只見町の自然の魅力をお伝えします！



■会 期：2021年12月4日（土）～2022年4月4日（月）

■場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

【自然観察会】 8月28日（土）

「夏のブナ林で昆虫観察会」を開催

8月28日（土）、梁取のブナ林（学びの森）において昆虫観察会を開催し、17名が参加しました。梁取地区森戸の沢沿いに位置するこのブナ林は、半世紀ほど前に薪炭利用のためブナやナラ類などが伐採され、その後実生から再生したブナから構成される二次林です。今回の観察会では、道中で見られた昆虫のほか、事前に設置しておいた昆虫採集用トラップとそれにかかった昆虫について、ブナセンター指導員が解説しました。



▲梁取のブナ林

ブナ林内に入ると、エゾゼミとコエゾゼミの鳴き声が梢から聞こえてきました。7月下旬から現れるこれら2種のゼミの鳴き声はよく似ています。「ジーーー」と鳴くエゾゼミに対し、コエゾゼミはそれよりも少し高い音で鳴きます。参加者は耳を澄ましてこれらの鳴き声の微妙な違いを聞き分けていました。

道中では、事前に仕掛けておいた衝突版トラップと落とし穴トラップを見て回りました。前者は、地表付近を飛ぶ昆虫を透明の板に衝突させ、地面の容器に落とすトラップです。容器の中をのぞくと、ハネカクシという甲虫の仲間やカマドウマ類の幼虫が見られました。



▲トラップを確認する参加者

落とし穴トラップは、プラスチック製のコップを地面に埋め、地表を歩いて移動する昆虫を落として捕獲するトラップです。コップの中身を確認すると、クロナガオサムシ、マイマイカブリの幼虫、クロツヤヒラタゴミムシなど、ブナ林の地表に生息するオサムシ科（甲虫目）が入っていました。マイマイカブリはカタツムリを捕食することで有名ですが、普段あまり目にする事のない幼虫の姿に参加者は驚いていました。また、色鮮やかなセンチコガネという糞虫もトラップにかかっており、この仲間が動物の糞や死体、腐ったキノコ類に集まることを解説しました。

ブナの奇木がある中間地点を過ぎると、ブナの幹に止まっていたヨコヤマヒゲナガカミキリを見ることができました。本種は日本固有で、ブナとイヌブナの生立木しか食べない唯一のカミキリムシです。幹に止まっている成虫の姿は、見



▲ヨコヤマヒゲナガカミキリ

事なまでにブナの樹皮とそっくりで、保護色となります。日中は、ブナの梢で細枝をかじっていることが多く、夕刻になるとメスは地表部に下りてきて、ブナの根際に産卵します。羽化した成虫が幹から脱出する際にあける丸い穴（脱出孔^{だっしゅつこう}）は、本種が生息している証です。

参加者は、目視による探索やトラップで得られた昆虫類を実際に観察することで、ブナを直接利用する種や、ブナ林を主な生息環境とし、他の生きものに関わりながら生活する種の生態について理解を深めました。

【自然観察会】 8月8日（日）

親子向け昆虫観察会

「真夏のトンボ／夜の昆虫観察会」を開催

8月8日（日）、夏休み企画として、町内の親子を対象に昆虫観察会を催し、午前の部（トンボ）は3組7名、夜の部（夜行性昆虫）は6組14名のご家族の参加がありました。

トンボの観察会では水田と溜め池を巡り、合計19種のトンボが確認されました。水田は水のない時期があるのに対し、溜め池は年間を通して水があるなど、その違いによって異なるトンボが生息していることを指導員が解説しました。



▲トンボを採集中の子どもたち

夜の昆虫観察会では、ただみ・ブナと川のミュージアム周辺を歩きました。草地で鳴くハヤシノウマオイの声に耳を澄ませたり、樹上で眠るアブラゼミや、外灯に集まったカブトムシ、クワガタムシ、ガなどを観察したりと、普段は接する機会のない夜の昆虫の世界に子どもたちは夢中でした。

【自然観察会】 9月19日（日）

親子向け昆虫観察会

「秋の只見でバッタとカマキリを探そう」を開催

9月19日（日）、只見町ブナセンターでは町内の親子を対象にカマキリとバッタの観察会を開催しました。本観察会では、ただみ・ブナと川のミュージアムから只見川農村公園まで歩き、道中で子どもたちが見つけた昆虫の生態などを指導員が解説しました。

当日は季節外れの暑さを感じるほどに日差しが強く、カマキリやバッタは茂みの中に

身を隠してしまっていました。子どもたちはお目当てのカマキリを頑張って探していましたが、カマキリの隠れる能力の前に大苦戦。しかし、苦勞の甲斐もあって目的のオオカマキリに加え、コカマキリ、カンタン、ミカドフキバツタなどが観察できました。

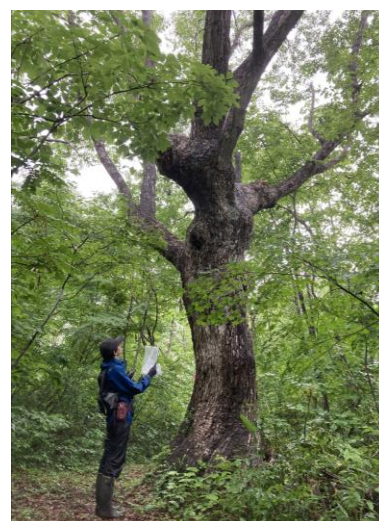


▲カマキリを探す子どもたち

【自然環境・生物多様性の保護・保全】

黒沢あがりこ型樹形コナラ巨木群をナラ枯れから守る！

只見町黒沢区薪平には、薪材の採取を目的とした雪上伐採の結果形成された全国的にも珍しいあがりこ型樹形コナラの巨木群が存在します（“あがりこ”とは、一般に、東北地方の多雪地帯を中心に見られる人為的により形成されたブナの独特の樹形を指します。その樹形は、幹の地上2～3mのところまで幹が瘤状に肥大し太くなり、さらにそこから多くの幹が発生しています）。このコナラ巨木群はナラ枯れ被害（カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌によってナラ類、シイ・カシ類が集団枯損する被害）を受けており、只見町ブナセンターでは2012年から齊藤正一博士（山形大学農学部客員教授、只見BR支援委員会委員）に助言をいただきながら殺菌剤注入によるナラ枯れ防除に取り組んできました。



▲殺菌剤注入木の生存調査
(2021年6月)

2020年秋、新たな殺菌剤の試験を兼ねた注入作業を50本以上のコナラなどに行い、今年6月に新薬の薬害調査、9月に効果調査のために処理木の生存確認調査を実施しました。その結果、ほぼ全ての処理木の生存が確認でき、貴重なコナラ巨木群を保全することができました。残念ながら新しい殺菌剤は開発が中止になってしまったのですが、ブナセンターではかつての森林利用を伝える「あがりこ型樹形のコナラ巨木群」の保全に引き続き努めていきます。

只見町内ナラ枯れ被害分布調査を実施！

只見町ブナセンターでは2012年から毎年、町内のナラ枯れ被害の分布調査を実施しています。調査は、ナラ枯れによる枯損木が確認できる9月上旬頃に国道・県道など主要な道路から当年に被害を受けたナラ類の本数と位置を地形図に落とししていく形で行います。これまでの調査から、2011年頃、町内の西側、新潟県から八十里越、六十里越

を通じて只見町ヘナラ枯れが侵入し、只見川を下るあるいは伊南川を遡る形で被害分布が拡大し、一旦は終息したかにみえた年もありましたが、2020年は隣の金山町から松坂峠を越して、布沢地域に侵入、過去最大の分布域と被害本数を記録していました（詳細は、ブナセンター紀要 No.2、No.7、No.8 に掲載されています）。

今年は調査開始から10年目になりましたが、被害はついに町の東端まで拡大しました。その結果、町内全域に被害が認められ、被害量の中心は東から西方向へ移動してきている傾向にあることがわかりました。このナラ枯れの被害拡大を食い止めることは困難ではありますが、町役場の農林担当部署と情報を共有し、できる限りの対策を検討していきたいと思っております。



▲只見町東端（梁取地内）まで拡大したナラ枯れ

【人材育成】

日本自然環境専門学校の実習を受け入れ！

6月から10月にわたり、日本自然環境専門学校（新潟市）の4つの研究室（植物、鳥類、昆虫、野生動物）から合計32名の学生を対象とした実習を受け入れました。

ユネスコエコパークは人と自然との共生の実現のために人材育成を行う機能を有しており、また、持続可能な社会のための教育（ESD）の実践の場として有用とされています。それぞれの実習について、1泊2日～3泊4日の日程で、只見の自然・生物多様性・生活文化・ユネスコエコパークに関するセミナー、ただみ・ブナと川のミュージアムの見学、専門分野に関する只見ユネスコエコパークのフィールドの特徴を活かした野外実習などを組み合わせた内容で実施しました。



▲センサーカメラによる哺乳類調査
（動物実習）

野外実習の内容は、植物採取・同定、要害山の様々な立地での植生調査、猛禽類の観察調査、トラップを用いた小型哺乳類の捕獲調査などです。野外ではじめて行う調査に戸惑う学生も多かったようですが、徐々に慣れてできるようになるなど成長のスピードに驚かされました。最終日の成果発表では充実した表情が印象的でした。



▲実習成果の発表（植物実習）

=====**お 知 ら せ**=====

【動画紹介】

ネット企画展「只見のブナ林の昆虫」

ただみ・ブナと川のミュージアムで 11 月 29 日（月）まで開催中の企画展「只見のブナ林の昆虫」を紹介する動画を配信しています。下記の QR コード（ブナセンター公式 YouTube チャンネル）よりご覧いただけます。



▼動画はこちら



只見町ブナセンター 2021 年度行事一覧（予定）

月	企画展	観察会
11月	・ 7/31(土)～11/29(月) 「只見のブナ林の昆虫」	—
12月	・ 12/4(土)～4/4(月) 「只見の猛禽類」	計画中

<編集後記>

みなさま、冬支度はお済みでしょうか。冬眠を控えた野生動物も冬支度をしていることでしょうか。この秋は町内でのクマの目撃状況が少なかったことから、奥山で樹木の果実がそれなりに実っていたのかもしれませんが。さて、只見町ブナセンターでは、冬季も感染症対策を徹底した上で、新しい企画展、講座・観察会を開催する予定ですので、ぜひお越しください。（三瓶）

発行 **只見町ブナセンター**

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地



只見町ブナセンター

電話 0241(72)8355

ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356

電子メール info-buna@amail.plala.or.jp

Facebook <https://www.facebook.com/tadami.buna>

附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」、「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前 9 時～午後 5 時（最終受付は午後 4 時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

入館料：高校生以上 310 円 小・中学生 210 円 未就学児無料（20 人以上は団体割引）

